

2019年度第4回NPO法人共同保存図書館・多摩理事会

- 1 日 時：2019年8月6日（火） 午後6時30分から午後9時
- 2 場 所：国分寺労政会館 第2和室（3階） （国分寺市南町3-22-10）
- 3 議決権のある理事：7名
出席者：座間直壯、齊藤誠一、田中ヒロ、堀渡
欠席者：清田義昭、手嶋孝典、堀越洋一郎
事務局：

（1）第1号議案 会員の動向について【報告】

- ・2019年8月1日現在
正会員83名2団体 賛助会員44名1団体、計127名3団体（合計130）
6月に賛助会員1名入会

（2）第2号議案 『多摩デポブックレット第14号』の発行について【報告】

- ・塩見昇著『図書館づくりの現況から「保存」を考える』を7月7付けで発行できた。会員には『多摩デポ通信』第51号の発行時に、同封して送付した。
- ・2018年5月の、昨年度通常総会の記念講演のテープ起こしを元としているが、講演時のゆっくりした話しぶりでは及ばなかった話題について後半部で書き加えてもらっている。
- ・この出版物の反響はまだ届いていない。実際の図書館運営や図書館連携の現場で、この書物が今後話題になり、影響力をもてばいい。
→ 次回の「通信」に適当な方に書評・感想をじっくり書いてもらえるとよい。
- ・2月理事会で承認され、この号から本体価格を（600円から）800円に値上げした。

（3）第3号議案 『多摩デポ通信』第51号の発行について【報告】

- ・10ページ構成で、7月20日付けで発行した。会員には様々なものを同封して送付した。
- ・内容としては、通常総会報告及びその後の動き、清田氏の総会記念講演会報告、津野氏、平山氏の顧問就任（継続）、第36回多摩デポ講座案内、講座で取り上げる『公立図書館における蔵書構成・管理に関する実態調査報告書』について（鬼倉正敏）、「ブックレット第14号」完成、カーリルとの共同研究……ISBNなし資料の同定識別のための実証実験、『生きるための図書館』竹内哲氏の新著紹介（蓑田明子）、清田さんのお話から思ったこと（芳賀啓）、『高知新聞』の取材のこと、財政問題について……うれしい反響多数！
- ・会員への同封物…改正後の定款全文、「TAMALAS『個別処理システム』の活用に関する調査」の報告、「ブックレット第14号」1冊、第36回多摩デポ講座チラシ

（4）第4号議案 第36回多摩デポ講座の結果について【報告・協議】

- ・「公立図書館の除籍と保存、共同保存の実態—『公立図書館における蔵書構成・管理に関する実態調査報告書』（全公図）を読みながら—」

日時：8月5日（月）午後6時30分～9時 会場：国分寺労政会館第三会議室

講師:星野翼氏(埼玉県立久喜図書館) ※調査報告書の編集委員

伊藤民雄氏(実践女子大図書館) ※調査報告書の助言者

- ・全国公共図書館協議会(全公図)が2018年に行なった調査の結果を『2018年度(平成30年度)公立図書館における蔵書構成・管理に関する実態調査報告書』としてまとめ、3月に公表した。公立図書館の「収集(資料選択)」、「蔵書評価」、「保存」、「除籍」、「県域での共同保存」についての、非常に回答数の多い、初めての全国実態調査である。報告書を読み、そこから見える実態と問題点、今後の展望を考えるため企画した。
- ・参加費:500円(資料代) 事前申込不要
- ・配布資料:報告書抜粋 表紙、第4章~第6章、奥付。および2人の講師によるレジュメ。

(開催結果)

- ・参加者24名 会員14名(うち理事・事務局10名)、会員外10名
- ・内訳は、
 - 現職8+1名 市立図書館職員 5名(多摩市、八王子市、東村山市、東大和市、西東京市)
 - 区立図書館職員 1名(板橋区)
 - 県立図書館職員 2名(千葉)、県生涯学習課職員 1名(千葉)
- その他・不明15名
- ・書籍売上 ブックレット ①~⑫各1冊、⑬⑭各2冊、『東京にデポジット・・・』1冊
- ・講座資料代收益 12,000円。
- ・終了後、講師(二人)を囲んで交流、参加者7名+講師2名+最後に合流2名。

(内容面)

- ・全国の公立図書館の除籍と保存の実態に踏み込んだ、非常に画期的な調査であるとの発言が多かった。こういう調査は初めてだろうと講師も発言していた。特に「共同保存」についての質問項目や設けたことや、その実態をまとめた第6章は短い画期的。
- ・除籍や保存、共同保存の課題の多そうな現状やあまり進んでいない実践が浮き彫りになった。
- ・一方で丁寧な読み込みが必要であるが、それには時間が足らず、それは参加者各自が持ちかえる宿題ということになった。
- ・引き続き編集委員会は、今年度事業として、調査で得た結果の詳細分析と追加調査の準備を始めているようで、それには期待したい。会場でも発言があったが、全公図から政策「提言」が行われてもいいのではないか。
- ・一方で、もっとこの調査に反応し、実践の改良に生かす図書館界である必要があるのだが。
- ・今年度に追加で行われる全公図の調査活動の結果を待って、1年後、再度、多摩デポ講座を開催しようという提案があった。
- ・多摩デポとして具体的な全国の現状をふまえて「共同保存」につなげていく課題ができた。

(5) 第5号議案 「TAMALAS 個別処理システムの活用に関する調査」の際に寄せられたご意見への回答について【報告・協議】

- ・共同研究の定例会及び事務局会議で検討してきた回答の文案を基に議論し、大筋で了承。理事長の確認後、館長協議会を通して多摩地域の各自治体に送ることになった。
- ・同時に多摩デポホームページに掲載していく。その後改良をどう実践していくかも課題である。

(6) 第6号議案 (株)カーリルとの共同研究について【報告・協議】

- ・ISBN が付与されていない図書の同定研究の一環として、オープンブックカメラを使って、多摩地域では広汎な図書館で所蔵しているが ISBN が付与されていないことの多い地域資料の同定識別について、実証実験を行いたい。
- ・多摩川を主題にする資料を対象にしてみる。地域資料コーナーで、その分類で棚に蔵書が集まっている調布市立中央図書館で、書影、蔵書番号、(ISBN) をまとめて撮影させてもらい、書影と蔵書データを紐づけしてみる。8月27日(火)の休館日に作業をする予定。

(7) 第7号議案 財政改善に向けた検討について【報告・協議】

- ・会計担当者からの配布資料を基に協議した。
- ・今後も寄付金の呼びかけや収入を得られる取り組みを模索するが、基本的には、当該年度の会費収入と事業収入でブックレットの制作を含む定期的な事業をまかなえ、継続できる収支見通しを立てていく必要がある。
- ・会を持続できる会費の適正額についての議論もそこから積み上げていきたい。
→ さらに議論を重ね、今年度中には結論を出す。

(8) 情報交換

- ・長野県立図書館を会場に、8月25日(日)に「都道府県立図書館サミット2019」が開催される。具体的内容は不詳の部分もあるが、「都道府県と基礎自治体の関係—『協力』のスタンダードを築く」というタイトルが付いている。150人の会場で議論は主に午後行われる。どんな議論になるのか、どのぐらいどんな人が集まるのか、注目したい。
- ・「多摩むすびML」も今年中のうちに、引っ越しをせねばならない。同MLには意思決定の体制が既にある状態だが、「多摩むすび」は会員制をとった「NPO多摩デポ」が生まれてきた母体でもあり、現在も時々(未知の人からも)発信される連絡網の実態はあり、「多摩デポ」で、今後もMLとして続くよう手立てを取る。

【多摩デポ記事】

- ・「続 灰まで焼け 県大3万8000冊処分のその後9」『高知新聞』2019.06.19
※多摩デポ理事長、事務局長へのインタビューと全公図『2018年度(平成30年度)公立図書館における蔵書構成・管理に関する実態調査報告書』で発表されたデータを使い、全国の公立図書館界では、図書館活動を続ける中で、溢れ、保存しきれなくなる蔵書の処理についてどのような考え方やどんな取り組みがあるか、全国の実態はどうかを紹介する1ページを使った特集紙面。
- ・竹内哲『生きるための図書館—一人ひとりのために』(岩波新書 新赤版1783) 岩波書店2019.6.
※「コラム 図書館をめぐる、さまざまな団体」(p112-123)の中で、「特定非営利活動法人共同保存図書館・多摩」が、約1ページをかけて紹介されている。

【共同保存図書館関連論文】

- ・特になし

- ★ カーリルとの共同研究 第 41 回定例会 8 月 27 日（火）夕方、会場：調布
（同日午前中より調布市立中央図書館で行う、オープンブックカメラの実証実験終了後）
- ★ 事務局会議(2019 年度第 6 回) 8 月 15 日（木）午後 6 時 30 分～
会場：調布たづくり 11 階みんなの広場 3 番テーブル
- ★ オープンブックカメラによる地域資料蔵書の一括データ化の実証実験
8 月 27 日（火）午前 10 時～ 会場：調布市立中央図書館地域資料コーナー（休館日）

- ★ 次回の理事会 10 月 14 日（月・祝） 午後 6 時 30 分～
会場未定

5 議事録署名人の選任

議事録署名人として 2 名を選任することを諮り、齊藤誠一理事、田中ヒロ理事を選任することを全員異議なく承認した。

以上、この議事録が正確であることを証します。

2019 年 8 月 6 日

議長

議事録署名人

議事録署名人